

## 新ホール 市民のアイデアを 苫小牧

### 活用策 パネル展示

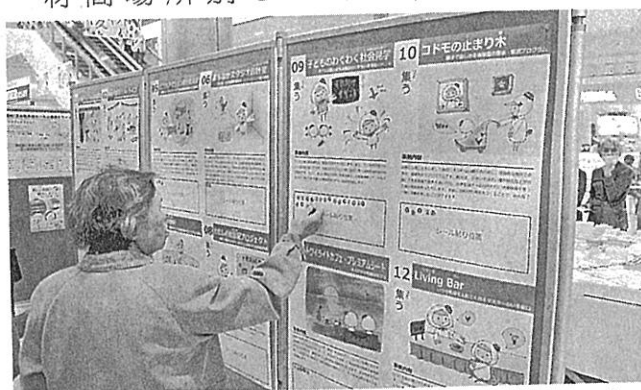
苫小牧市が市立東小跡地に建設準備を進める複合施設「市民ホール(仮称)」について考える展示会が3日、イオンモール苫小牧で開かれた。市民ホールの活用策をまとめたパネル63点が展示され、買い物客らが足を止め、苫小牧の新しい文化施設に思いをはせた。

市民の関心を高めようと市が企画。パネルには、市民ホールに統合される市民会館や文化会館などの利用

者らでつくる建設検討委員会などで出た意見をまとめた。会場では、子ども職業体験やソウルフードの料理教室、DIY教室などさまざまな活用策が紹介され、来場者は関心のあるパネルにシールを貼り付けた。

市北光町の主婦・岡啓子さん(67)は「お茶を飲むカフェなど、特別な用事がなくても出かけられる場所になればうれしい」と話した。会場ではアンケートも実施し、関心の高かった活用策と共に今後の検討の材料にする。

(土屋航)



市民ホール(仮称)の活動アイデアが並ぶ展示会

# 新市民ホール 共に考えよう

パネルや  
模型展示  
基本的な考え紹介

イオンモール

## 苦小牧



多くの市民が市民ホール(仮称)の活用を考えた市主催イベント

老朽化が著しい苦小牧市民会館など4公共施設を再編する新複合施設「市民ホール(仮称)」の建設構想で、ソフト部分の活用策を探る苦小牧市主催のイベント「新しい市民ホールで何をしよう〜みんなで考える未来の憩いの広場」が3日、市内柳町のイオンモール苦小牧で開かれた。

市は、2016年度(平成28年度)から2カ年をかけて策定する基本計画で、「親近感と愛着を持てる憩いのプラザ」苦小牧市民の「サードプレイス」を掲げ、その実現に向けた理念、機能を設定する。

イベントでは市民ホールでの展開を想定した63の活動アイデアを紹介し、買い物客らに参加したい活動に投票してもらったほか、基本理念や基本的な考え方をパネルなどで詳しく紹介。また、模型などを使い建設地について市の考えを提示した。建設地としては苦小牧東小跡地を基本に検討している。

会場を訪れた山手町の佐川のり子さん(52)は「天候の悪い日でも子どもを遊ばせたりでき、市民が気軽に集まれる場所になるといいですね」と期待を寄せた。(伊藤洋志)